

## 平成 31 年度 入学試験問題 小論文（国際地域学科）出題意図と解答例

### 〈出題意図〉

問題文は、いじめや差別は何故おこり、なかなか解決されない理由について論じ、さらに共生社会を目指す必要性を述べている。若者に向けて書かれた文章であり、平易な表現で論が展開され、内容、分量ともに適切な水準となっている。

問題文の中で扱われているいじめや差別、共生社会についての考察は、現代社会における子どもの教育問題について考える態度を身につけさせようとする函館校の国際地域学科地域教育専攻の趣旨と合致する。受験生にとって、本問題がいじめや差別について考えるきっかけとなることが期待される。

### 【設問 1】

いじめや差別は何故おこり、なかなか解決されないのか、本文で指摘されている人間に共通する性質という観点から著者の考えを 200 字以上 250 字以内で書きなさい。(150 点)

### 〈解答例〉(25 文字×9 行)

私たちが「自分と違う人」を気にしたときに、その人は自分より劣っていると下に見ようとしたり、仲間に違う人がいることでやりにくいとその人を追い出そうとしたりする性質が人間には備わっているため、いじめや差別が起こると著者は述べている。

そして、私たちの心には、自分が認めたくないことや認めるのはつらいことがあると、それを見なかったふりをしたり、それを打ち消す「否認」という行為が起きるためいじめや差別がなかなか解決されないと述べている。

(225 字)

## 【設問2】

著者は、グローバル化に伴い、日本も共生社会の道に進んでいくと述べている。そのような社会の学校で生じる問題にはどのようなものがあるか、あなたの考える問題を二つあげなさい。そして、学校で共生社会を目指す上で、それぞれ必要な対応策を600字以上700字以内で説明しなさい。(250点)

〈解答例〉(25字×28行)

グローバル化に伴い、日本も共生社会の道に進んでいく中で、次の2つの問題が出てくると考える。

まず、一つは日本語の指導が必要な児童生徒の存在である。近年、国際結婚や外国からの出稼ぎ労働者の増加などによって、日本語を母語としない子供が学校に増えている。日本の小学校では日本語で授業を進めていくことになるため、日本語力の不足は、授業以外にも学校生活全般に影響する。そのため、日本の学校での教育を保障するためには、子供たちに日本語を教えることも必要になってくるだろう。

そこで、私が考える対応策としては、子供の出身地の母語は尊重しながらも、日本語を話す、聞く機会を増やしてあげることである。学校の放課後の時間を使って、教員や友達と会話する機会をもたせたり、語学の習得には十分な時間が必要なので、日本語学習の機会を授業外でも設定したりすることである。

そして二つ目は、文化が違う児童生徒の存在である。他国から日本に来た子供たちにとっては、文化の違いが大きく、適応することが難しい。そこには、これまでの習慣や宗教上の違いなど様々なことが挙げられる。対応策としては、この文章中にもあるように日本の子供たちが違いを受け入れることが考えられる。ここでは、総合的な学習の時間や道徳の授業において、違いを認める学習をしていくことが必要である。例えば、様々な国の習慣を調べて、発表し合ったり、体験したりすることが挙げられる。お互いにそれぞれの国の文化を認め合い、寛容な気持ちで接することができるようになれば、このような問題は小さくなっていくと考える。

(660字)